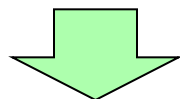


小樽市中心市街地活性化基本計画 (計画期間 20年7月～25年3月)

【中心市街地を巡る状況】

- 運河、歴史的建造物、小樽ガラスに代表される観光入込客数約400万人の「観光のまち」
- 平均滞在時間が約5時間、市内に宿泊しない観光客74%の「通過型観光地」
- 大型の郊外宅地開発、郊外型大型小売店の立地、中心市街地内の百貨店撤退(H17)



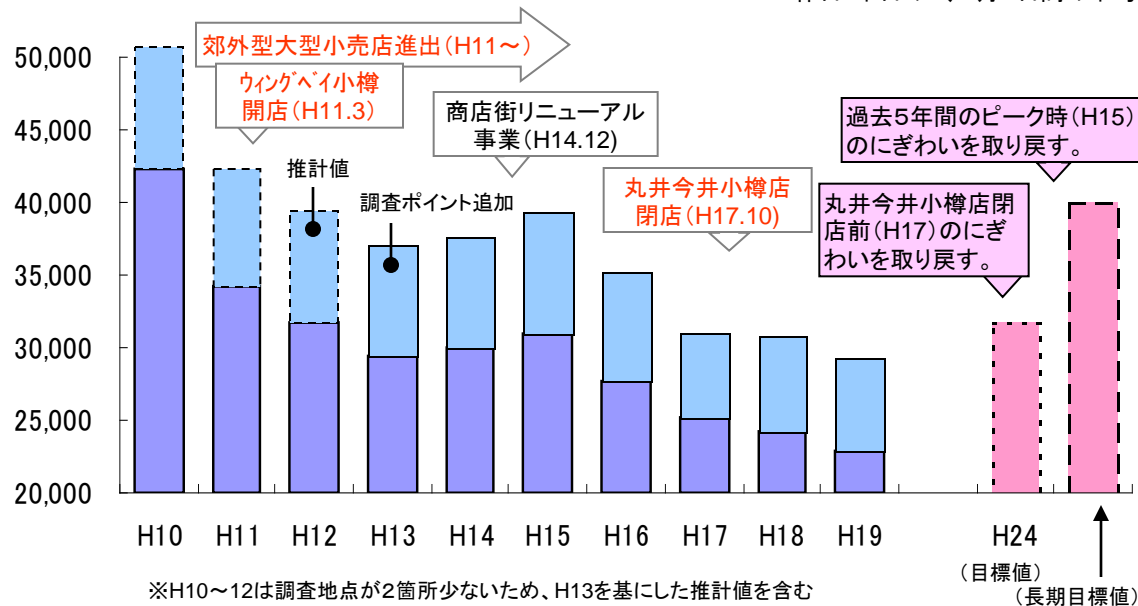
- 歩行者通行量(平日・休日平均)
H10: 42,368人 → H19: 29,627人(△30%)
- 小売販売額
H9: 866億円 → H16: 575億円(△34%)
- 居住人口
H10: 15,816人 → H19: 14,455人(△9%)
- 宿泊者数
H11: 48.6万人 → H18: 43.9万人(△10%)

【目標】

目標	指標	現況値	目標値(H24)
まちなかのにぎわい創出	歩行者通行量 (休日・平日平均)	29,627人(H19)	31,700人
まちなか居住の促進	居住人口	14,455人(H19)	15,000人
まちなかでの宿泊の促進	宿泊客数	43.9万人(H18)	45.5万人

(歩行者通行量の動向と数値目標)

* 休日・平日の6、9月4日間の平均



※H10～12は調査地点が2箇所少ないため、H13を基にした推定値を含む

(目標値)
(長期目標値)

新たなイベントや観光拠点の創出、中心地での住宅や高齢者施設の整備等を行うことにより、市民を中心商店街に引き込み、賑わいの回復を目指す。

小樽市中心市街地活性化基本計画の事業概要

まちなか居住促進

- 「空き家バンク事業」: 市役所内に相談窓口を設置し、空き家情報の提供を実施
- 診療所・短期入所者生活介護施設等を併設した高齢者専用賃貸住宅を整備

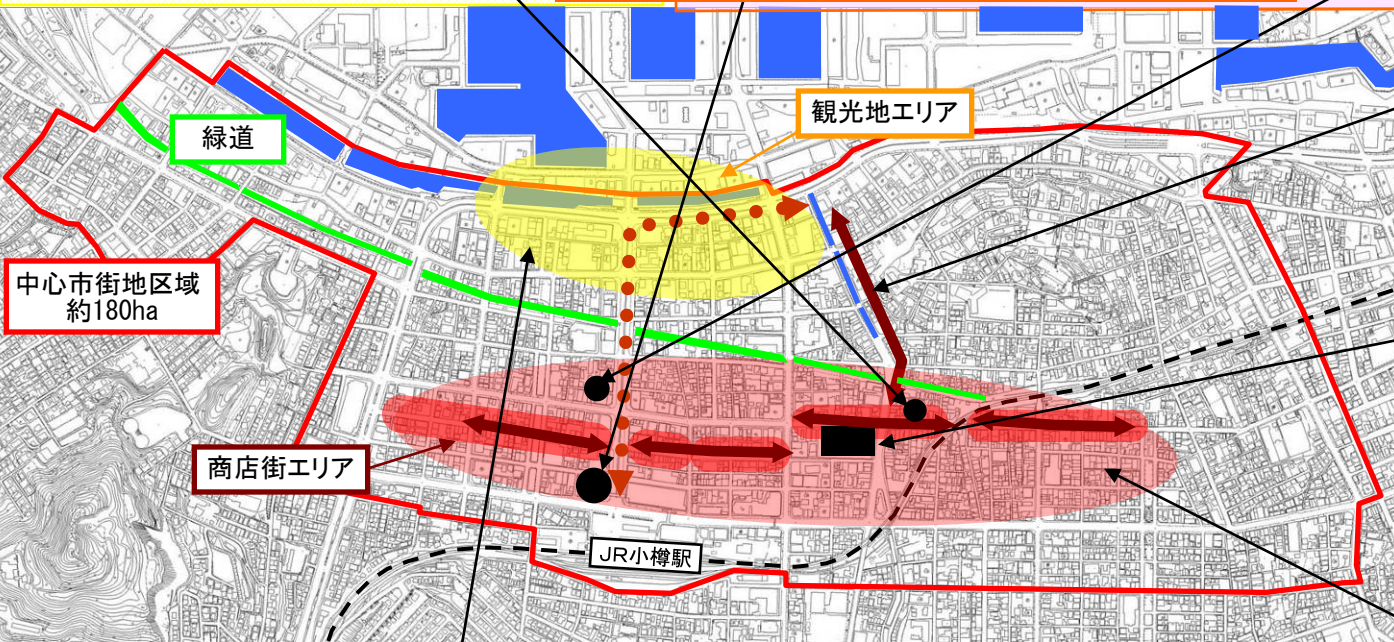
まちなかの賑わい促進～中心商店街の回遊性向上～

- 老朽化した駅前街区を市街地再開発事業により更新。拠点となるホテル・住宅・商業施設等を整備



小樽駅前第3ビル周辺地区
第1種市街地再開発事業
敷地面積: 3,560㎡ 延床面積: 26,646㎡
地上17F、地下1F
マンション117戸 ホテル234室

- 市民と大学との交流の場として、ホテルのスペースを活用した「小樽商科大学駅前プラザ」を開設し、講演会や留学生との交流会や図書貸出サービス等を実施



- 観光地と商店街を結ぶ河川沿いの道路を整備する「妙見川そぞろ歩きロード事業」を実施



- 旧丸井今井跡の再開発ビルの空きスペースを低額で貸し出す「一坪からマイショップ事業」を展開
大店立地法の特例を活用し、商業ビルの再開に向けた官民連携の取組



- 「やさしい街」をコンセプトに商店街の空きスペースを活用した障害者との交流、世代間交流イベントや定期的な映画上映等の実施



まちなかでの宿泊の促進～通過型観光から滞在型観光へ

- 大イベントである「小樽雪あかりの路」「小樽ロングクリスマス」等に合わせた宿泊プランや夜景などのオプションプランを拡大
- 近年著しく増加傾向にある外国人宿泊者に対して、市長によるトップセールスを推進、海外での観光キャンペーンを拡大等



- 「小樽ファンが支えるふるさとまちづくり寄附条例」で市内内外の小樽ファンから募る寄附金を財源とし、歴史的建造物の保全等を実施し、新たな観光拠点を創出



- 商店街等の新たなイベントとして、
 - ・地域ブランドである「小樽ガラス」の工房が集まり販売や製作体験を行う「ガラス市(仮称)」を開催
 - ・榎本武揚の没後100年記念イベントとして講演会や仮装コンテスト・パレード等を実施

